

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県岐阜市粟野西6丁目117-2		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2190103768-00&SerVieCeOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年齢が高く重度化しているため、施設での看取り体制を整えています。自宅にいる感覚で生活できるよう個々に合わせた生活を提供しています。自立度に合わせてレクリエーションや体操等日々の生活に取り入れています。家族の方参加型での施設内で誕生日会などを開催しています。入居定員が少ないので、一人ひとりに寄り添った密な介護を提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の暮らしが本人や家族に大切な思い出となるように職員は、利用者の出来る力を引き出し、笑顔で楽しく過ごせるように取り組んでいる。食事の準備や片付け・洗濯物干しやたみ・掃除など利用者の出来る能力を奪わないように利用者のやれるところまで時間がかかっても見守るように支援している。入院後最期は事業所でも戻る利用者を温かく迎え入れ本人や家族に寄り添い看取った後も家族との交流がある。コロナ禍の事業所移転でしたが、ボランティア活動の受け入れや地域貢献活動、ネットワーク作りなどに積極的に取り組み地域との繋がりを大切にしている。居室引き戸の手掛けの工夫、トイレにシャワー給湯設備、重度化で浴槽に入れられない人用にシャワーチェアの設置など代表者(管理者)の理想や経験が随所に活かされ、利用者に暮らしやすく職員にも働きやすい環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念である「かえで」かぞくと地域との繋がりを大切にします えがおで楽しく過ごせる生活を提供します できることは見守り支援しますをフロアに掲示し職員間で共有し実践しています	楓には「美しい変化」と「大切な思い出」という花言葉があり、利用者の出来る事を見守りながら笑顔のある楽しい暮らしや家族との繋がりが、大切な思い出になるよう利用者や家族に寄り添う支援を共有しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事も徐々に開催されるようになってきていますが、参加できず交流することができていないのです。散歩などであいさつを交わす程度が現状です	自治会に加入し回覧板を届けたり、散歩時に地域の人や登下校の児童たちと挨拶を交わしたりしている。今年移転4周年記念行事としてパイオリン演奏会の準備を進め、地域の方への案内を計画している。また、地域のクリーン活動への参加も予定している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、市役所職員、包括支援センター職員、自治会長、家族の方々に協力を得て、事業所の近況報告や取り組みなどを報告し様々な意見をいただきサービス向上にむけ取り組んでいます	対面での運営推進会議を開催出来る様になり、参加者から多くの意見や助言を受けている。ヒヤリハットの報告に対する質問や意見などを解決策に参考にしたり、地域貢献活動やボランティアの受け入れなどの話し合いを活かすように取り組んでいる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に毎月初めに入居人数待機者情報を提供する他運営に関すること、制度改正など分からない事を相談し助言を受けながら協力関係を築くよう取り組んでいます	担当者とは、メールや電話で連絡を取り合っている。法改正や補助金の申請、他市町村からの入居手続きなどの相談に出向き、助言や指導を受けている。包括支援センター主催の同エリア事業所との交流会に参加して、ネットワーク作りに取り組む協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を理解し、定期的に研修会を開催し職員で話し合い、日々のケアの振り返りを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます	拘束をしないケアを理解して取り組んでいる。不適切な対応があればその場で注意し合ったり、場所を変えて指導したりしている。内容によっては、会議で話し合っ全体の問題として周知するよう努めている。会議で委員会や勉強会を行っているが、記録の確認が出来なかった。	指針に基づいて身体拘束適正化委員会の議事録や研修記録を作成して、全職員が共有して取り組む仕組みを期待する。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックや、声掛けの仕方、声のトーンに注意を払い職員同士で注意をしながら虐待防止に努めています	職員の声かけが適切でない時は、他の職員と交代したり、落ち着く時間を持ったりしながら職員同士助け合い虐待防止に努めている。利用者からのハラスメントには、家族と話し合い適切な医療受診を行って利用者・職員相互を守る最善策を講じている。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は出来ていないのが現状です		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人、家族の方に十分説明をし契約の締結をしています。改定の際は電話で事前に改定内容を伝え、署名捺印をいただいています		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方や、家族の方に意見や要望等をお伺いし、運営推進会議等で報告するよう努めています	家族には、メールや電話・面会時などに利用者の状況報告と共に意見・要望を聞いている。要望から五十回忌の法事に出席できるよう対応した。利用者の誕生会に家族にも参加してもらい、家庭的な雰囲気です。食事しながらお祝いし、話しやすい環境や信頼関係を築くように努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、意見や提案を聞くほか個別で意見等を聞き運営に反映させている	管理者と会社役員も職員と共に支援業務に携わり、職員とは話しやすく言いやすい関係を築いている。職員の趣味や得意分野を活かし、創意工夫した四季の飾りつけや脳トレを兼ねたゲーム・行事食などの提案を取り入れている。利用者にも好評で、職員は、責任感や達成感を意識できている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員個々の日頃の勤務状況を把握し適正に評価をし賞与や給与等に反映しています。個々に無理なく働けるよう配慮しています	職員の家庭事情を把握し、管理者・役員も現場に携りながら職員の負担荷重にならないよう休日取得にも配慮してシフトを組んでいる。全職員の日頃の勤務状況や努力を管理者と役員二人で適正に評価して結果を賞与や給料に反映し、職員が向上心を持って働ける職場環境づくりに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員が不足しており日々の業務で精一杯となり法人外の研修は受けられていないですが、施設内での研修は定期的開催しています	内部研修として会議での勉強会やYouTubeを利用しての研修を行っている。資格取得のための研修参加者に勤務扱いで費用負担を行った実績もあり、人員不足解消後は正職員・パート職員の区別なく、資格取得や希望する研修の受講を応援する姿勢である。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の同エリアの事業所の交流会等に参加しネットワーク作りに取り組んでいます		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の意志や能力を理解し尊重し、できる事はご自分の力で、できない事は職員がサポートしながら良好な関係を構築するよう心掛けています		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の訴えは少ないですが、その時々と言動や表情などを汲み取り可能な限り本人の思いに寄り添えるよう努めています	毎朝、顔を見て挨拶をする時に利用者のその日の様子や気分を把握するように心がけている。利用者同士の会話もあり、日々の暮らしの中で思いや希望を聞いている。言われない方には、生活歴の情報を参考にしたり、表情や言動を見て思いを伝えられるように声かけをしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ケアの課題や問題点を見ながら、主治医、家族、ケアマネージャーに相談しながら、介護計画の作成をしています	本人・家族に要望を聞き、会議での話し合いや介護記録を基にモニタリングを行って介護計画を作成している。医療面で問題があれば医師の助言を受け計画に組み入れている。退院後や状態に変化があれば見直し必要に応じて変更している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録、業務日誌、申し送りをを行い職員間で情報共有しています。変化や気づきがあった場合支援内容の見直しをしています	個別の記録には、利用者の様子や状態・発した言葉・気づき・実践したケアなどを記載している。重要な連絡は業務日誌の申し送り事項で情報を共有している。個別記録をモニタリングや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物代行や緊急時などの病院への付き添いや家族の方が対応できないことを支援しています	家族の都合で医療機関の付き添いが出来ない場合は、職員が同行して結果を報告している。緊急時も職員が対応し、家族が到着するまで付き添っている。寝たきり状態になった方に訪問リハビリを紹介したことがある。買物代行や馴染みの理美容への送迎支援も行っている。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだコロナ感染防止の観点から公共施設や商業施設の利用を控えています		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医か、当ホームの協力医療機関かを選択いただき本人家族の方が納得出来る医療が受けられるよう支援しています	入居時に2ヶ所の協力医から選択して訪問診療を受けている。眼科などの受診は、家族が付き添い利用者の状態を書面で伝え家族より報告を受けている。職員が同行することもある。夜間の急変時は、家族に連絡して職員が対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際直ぐに介護サマリーを病院へ送り入居者の情報が分かるよう努めています。退院カンファレンスに参加し早期に退院できるよう病院関係者との協力体制を築いています	入院時には利用者の情報を書面で伝え、病状の確認などは、病院担当者と電話で連絡を取り合っている。利用者が住み慣れた事業所へ早く戻れるよう、訪問看護で対応できることなどを相談したり、カンファレンスに参加したりして退院に向けて取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期における方針をある程度決めていますが、終末期になった時点で再度話し合いをし施設内でできることを十分理解していただき主治医、訪問看護、職員、家族と連携しながら支援しています	入居時に事業所の方針を説明している。状態の変化に応じて家族に説明と意向の再確認をしている。看取りになれば医師より説明してもらい同意書をもって、職員・医師・訪問看護師・家族と情報を共有しながら終末期の支援に取り組んでいる。家族が泊まって最期を一緒に過ごせる支援もしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルは作成し、事故対応の初動対応や訓練を行っています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難誘導訓練を実施しています。災害用品食料、水等を備蓄しています。地域の方との協力体制は築けていないのが現状です	昼夜とも避難訓練の計画をしていたが、人手不足と利用者の重度化や看取り期と重なり実施することが出来ず延期のままとなっている。飲料水・食品・日用品の備蓄をしている。土砂災害以外は、一時避難所より近い学校への避難受け入れの許可をもらっている。	延期となっている避難訓練を早急に実施することを期待する。

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で入居者個々の性格を把握し言葉遣いや接遇に気をつけながら人格を尊重した対応を心がけています	職員の言動に利用者個々の受け止め方に差異があり、一人ひとりを尊重して、その人に合わせた対応に心がけている。入浴は同性介助に配慮している。名前の呼び方は、本人・家族の希望を聞いている。ホームページなどの写真掲載時は了解を得て、氏名はイニシャル表示にしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動、表現、行動を観察しながらその時々 の思いを考慮し思いや希望を伝えられるよう働きかけています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間もとくに決まりはなく、一人一人のペースでゆったりと生活ができるよう支援しています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをリクエストしメニューを決めたりしています。現在は一緒に準備や片付けは職員が行っているのが現状です	冷蔵庫にある物で利用者にメニューを決めてもらっている。皮むきや片付けなどを一緒に 行い職員も会話をしながら一緒に食事をして いる。行事食やテラスでたこ焼きパーティー をやったり、ピザをテイクアウトしたりして楽し んでいる。回転寿司に行く計画をしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量をチェックし足りないものは、お茶以外にゼリー飲料や栄養補助食品等で補っています。嚥下状態が悪い方はトロミ材やミキサー食にし必要量の確保に努めています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアをしています。ご自身でうまくできない方は職員が介助し行っています。月、二回訪問歯科往診にて口腔内のチェックや治療、口腔内の清掃の仕方などの指導を受けています	歯科医や歯科衛生士の指導を受け、利用者一人ひとりの口腔内の状態に合わせた歯ブラシ・歯間ブラシ・舌ブラシなどを使って毎食後の口腔ケアを支援している。一人で行う人にも残留物の確認をして口腔内の清潔保持に努めている。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い排泄支援をしています。失禁時などは本人の自尊心を傷つけないよう対応をしています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間の曜日等や時間は大まかに決めていますが、個々の湯加減や入浴時間をしっかり把握し身体の清潔の維持、気分がリフレッシュできるよう支援しています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や照明等個々に調整し快適に眠れるよう支援しています。リクライニングソファなどを使用し休息したりされています		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し副作用などに注意を払い往診時に様子を報告。減薬、変更の指示を受けています。服薬介助時は誤薬事故防止の為職員2名で日付け、名前を読み上げ服薬支援しています	薬剤情報で利用者の薬の内容や変更を理解している。前日に薬のセットを行い、服薬時は声を出して名前や日付を復唱し、服薬後は口腔内に薬が残っていないか確認をしている。服薬支援は常に2名で行い誤薬や飲み忘れに気を付け、服薬後の状態にも注意している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動不足にならないよう毎日の日課にラジオ体操や歩行練習を取り入れたり、ゲームやトランプを職員と一緒に気分転換を図っています	食事の準備や片付け、洗濯物干し、モップかけなど時間がかかっても見守るよう利用者の力を活かす支援をしている。ぬり絵や習字、体操や歩行訓練など楽しみごとや気分転換をしている。体を動かして計算をするゲームで認知症の進行予防の工夫もしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気分に合わせて、散歩や日光浴をしたり、家族の方の協力で自宅に帰られたり、一緒に食事に行かれたりされています	車椅子の人も一緒に散歩に出かけている。道の駅までドライブしたり、花見に出かけたりしている。家族の協力で外食や買い物・墓参り・初詣などに行く人もある。テラスで食事やおやつをして外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は困難な方が多いため、施設で預かり買い物や外出時可能な方は本人にお渡し見守りしながら会計をされます		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をかける事はないですが、職員の援助でテレビ電話などを活用し定期的に家族の方と電話をしたりしています。手紙のやり取りはできていません		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節ごとの飾り付けを行い目で見て今の季節を理解していただいたり、書道や塗り絵などの作品などを展示して自宅のような雰囲気でも過ごせるよう工夫しています	共有空間には、季節の手作り作品や習字を飾り、庭に洗濯物を干している。帯を活かした飾りつけ、昭和の家具や小物、懐かしいポスターなど回想法に活かしている。ソファがいくつかあり、リクライニングソファでおしゃべりやテレビを見る人、静かに過ごす人など思い思いに過ごす場所を作っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を理解し、仲の良い入居者同士隣にしたり、職員が間に入り会話のフォローをしています。居室で過ごされたい方、リビングフロアで過ごされたい方、その日の気分に合わせて居場所作りをしています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し家族の写真や思い入れのあるものを居室に置くなどし落ち着いて過ごせるよう工夫しています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー構造で、入居者の方が混乱されないようシンプルな作りになっています		